

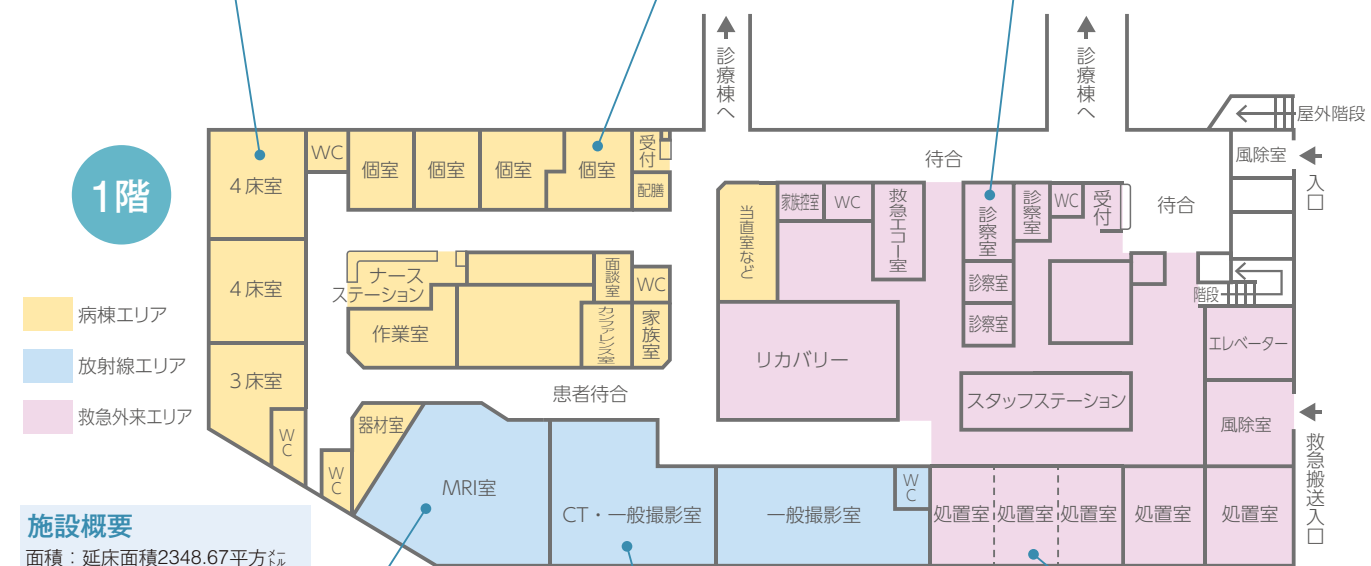
病室

個室4室、3床室1室、4床室2室の合計15床で構成され、個室2室には感染症対策として陰圧にできるような空調換気システムを導入。病室の壁面には、様々な医療機器をつなぐ無停電電源があり、経過観察治療ができる様になっています。



救急外来診察室

診察室は4室あり、うち1室は陰圧室として、感染症に対応できる仕様です。



MRI室

高速で、高性能な画像診断が可能に。また、MRI特有の閉塞感を低減するため、口径が大きい機種を導入しました。
 ※このMRIは市民のかたのご寄付により設置しました。



CT・一般撮影室

CTは画像解像度の高い装置を導入。また、同室には一般撮影装置もあり、患者の移動負担の軽減を図ります。



処置室

処置室は5室あり、3室がオープンスペース、2室が個室の陰圧室で、感染症に対応できる仕様です。



9月1日
供用開始

岡崎市民病院の
救命救急センター棟が完成しました

年間9千件を超える救急搬送に対応する岡崎市民病院。このたび、平成26年から建設を進めてきた救命救急センター棟が完成し、9月1日17時から重症患者の受け入れを行います。

岡崎市民病院施設課 ☎66・7251

屋上

災害拠点病院としての機能を充実するため、屋上には被災者用の緊急トリアージスペースを設け、収容テントが設営可能です。



エレベーター

エレベーター内でも救命行為が可能な大型の搬送用エレベーターを設置。緊急手術や集中治療管理が必要な場合は、3階の連絡通路を使い、隣接する診療棟3階の手術室などへ迅速な搬送ができます。

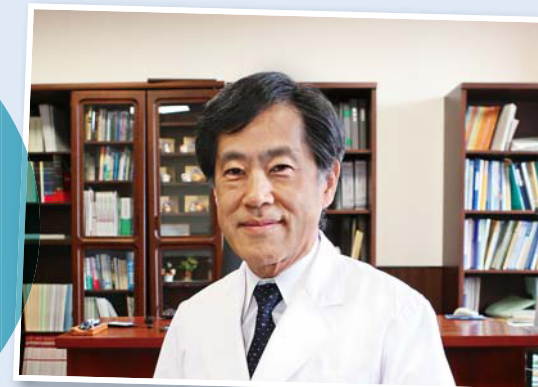


その他

屋外除染コーナーを、救急搬送入口付近に設置。体に付着した汚染物質を洗い流せるよう、シャワー設備があります。

更なる安全性と救急医療の質の向上を目指して

岡崎市民病院長 木村 次郎



岡崎市民病院は平成10年12月に現在の高隆寺町に移転開院し、16年が経過しました。この間、救急外来受診者数は年々増加し、複数の重症患者を同時に診察するには手狭で、患者の容態を観察するベッドも十分ではないなどの課題が出てきました。そうした救急医療の課題を解決するために、正面玄関北側に建設を進めてきたのが救命救急センター棟です。救急外来エリアは従来の1・5倍の広さとなり、経過観察用病室や迅速な精密検査のためのMRI撮影装置などを整備。また、24時間体制で働く救急医療スタッフの動きやすさや休息スペースにも配慮することで、今以上に安全性や救急医療の質の向上を図ることができると考えています。

当院の使命は一刻を争う重症救急患者の救命です。そのため、救急車で搬送されるかたや紹介状をお持ちのかた以外は、まずはかかりつけ医や地域の開業医で受診してください。平日の夜間や日曜・祝日は、当直医療機関または岡崎市医師会夜間急病診療所をご利用ください。今後とも皆様のご理解とご協力をお願いします。

※救急医療機関について、詳しくは23ページをご覧ください。